



いのきさん

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

井の頭 吉祥寺 鷹

11号
2013年7・8月号

2013年(平成25年)7月1日

●編集・発行
いのきさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 気付
電話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO法人みとか都市観光協会
武蔵野市観光推進機構

●制作支援
株式会社文伸 / ぶんしん出版

連載絵本 カメ吉の巻 その3

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと3年10ヵ月

井の頭自然文化園

企画展

●「御殿山鹿倶楽部——シカを知る」開催中!

動物としてのシカはもちろんのこと、シカと日本人の関係をさまざまな側面から紹介し、最後はシカと私たちの間で起こっている問題について知り、考える内容です。
2013年12月28日(土)まで 場所:動物園(本園) 資料館1階

★夏のクイズラリー

毎年、夏らしく、ちょっと怖くて不思議なクイズ・スタンプラリー。
今年の夏は、何が待っているかな?
7月20日(土)～9月1日(日)

★「冬の動物園・水族園ほっとフォトコンテスト」入選作品展

2013年1月10日～3月10日にご応募いただいた動物たちの写真のなかから入選作品を展示します。
7月20日(土)～8月18日(日) 場所:資料館1階絵本コーナー

★ジャブジャブ池(お子様向けプール) 7月3日からオープン

実は、ひそかに人気スポットのジャブジャブ池がオープンします。
必ず、水着または、水にぬれてもよい服装や、水遊び用おむつを着用してご利用ください。雨天時は中止になる場合があります。利用は16時までです。

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園

ネイチャー☆プログラム

ネイチャー☆プログラムとは…次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 7月7日、8月4日、9月1日
- グリーンバード(井の頭池付近) 7月13日、27日、8月10、24日、9月14、22日
- ツリー☆マジック(第二公園) 7月13日、9月14日
- どんぐり広場(御殿山広場) 7月18日、9月19日
- ツリートレック(第二公園) 7月20日、8月17日、9月23日
- ツリークライミング講習会(第二公園) 9月15～16日

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html>

井の頭かんさつ会

- 第99回 「池の生き物」 7月20日(土) 10:00～12:00
- 第100回 「ナイトウォッチング」 8月10日(土) 18:30～20:30

事前申し込みが必要です。
詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

アートマーケットと ファンアーティストな人々



絵と同様、元氣いっぱい
笑顔のSANAさん。

SANAさん(アーティスト・イラストレーター)

秋に行われる「井の頭100祭」のポスターコンテストの人気投票で、SANAさんは3年連続1位を獲得しています。公園内外に掲示されている「井の頭公園アートマーケット」のポスターはその受賞作です。

画面いっぱいにはたくさんの動物を描き込んだにぎやかな画風は、自称「ゴチャゴチャ絵」。「子どものころから動物と絵が大好き。見たことのある動物なら何でも描けます。どんな動物がいるか探してみてもいいですよ。」

SANAさんの周りはいつも人だかり。描きかけの絵を持ち込んで描きながら接客しているので、「何をつかって描いているんですか」「色鉛筆とカラーペンです」などとお客さんと会話が弾みます。ときおり左手に絵を持って、くるくると回しながら描く様子はパフォーマンスのようです。「井の頭公園は息抜き場所、ホームグラウンド。描いていると楽しくなってくるんです」ととびきりの笑顔を見せてくれます。

SANAさんの出展情報などはホームページで。
<http://www.sananomori.com/>

小田原 澤(おだわら みお)
編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケットは、主に土日祝日に開催しています。

一年で一番良い季節を迎えています。

3月の異常高温と思いきや、4月は異常低温という天候不順。例年になく花粉の大量飛散の憂鬱な時期も過ぎ、一年で一番良い季節を迎えています。1日に皮をむいたバナナ22kg、キャベツ20kg、リンゴ10kg、ニンジン3kg、おにぎり2升、食パン5斤、青草6kg、バナナとカットアルファ(粉碎した干し草)を混ぜた団子3kgにブドウとパイナップルのデザートを毎日食べています。冬場、防寒の為に早目に入室させていましたが、現在は3時45分に入室、午後4時まで観覧する事が出来ます。入室した時にはこれらの餌(一部)を食べるところを見る事が出来ます。(季節・天候により観覧時間は変わりますのでご注意ください)

飼育展示係 室伏三喜男



おにぎりを食べるはな子

「いのけん」講座 答え合わせ

問題1

1) 大きな声を出すから

問題2

2) 12時間
浜町の家を出たのが午前10頃、戻ったのが午後10時頃との記述ですが、遅い出発ですね。

池畔の林は小鳥の親子で賑やかなのに、池に水鳥の親子が見られないのが淋しいです。バンも最近子育てをしていないし、6月10日に現れたカルガモ親子もすぐ神田川へ引越しました。井の頭池に足りないのは小魚とエビだけではないようです。カイツブリは食糧難のため子育てはおろか定住する個体もいなくなりました。池に飛来するものは時々いるのですが、すぐに去っていきます。6月初め以降はそれも途絶えていました。

6月17日早朝、久しぶりにカイツブリを見つけました。夕方、それが池の中ほどで静かに浮かんでいたのが、日暮れを待って飛び去るつもりらしいと思いい、見守りました。すっかり暗くなった午後7時50分、カイツブリは「キーツ」と数回鳴いた後、滑走して飛び立ちました。しかし、向かった先は上空ではなく島の陰。今日は思いどごまったようです。原稿の締め切りを過ぎてしまったので結末を書けませんが、去るのは時間の問題でしょう。

6月17日に現れたカイツブリ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

井の頭公園の生き物たち その11 ブルーギル

井の頭かんさつ会 田中 利秋(たなか としあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外來魚問題にも取り組む。



ブルーギル

ワースト・コンビネーション

元々の名前は「ブルーギル・サンフィッシュ」。ギルとはエラのことです。原産地の北米に類似のサンフィッシュが数種類いる中で、エラふたの突き出た部分が青黒いのが特徴です。日本にいる全てのブルーギルは平成天皇が皇太子だった1960年に、当時の食糧難を解決する一助にと米国からもってきた15匹の子孫であることがDNA解析で明らかになっています。この魚を食べる習慣は根付かず、しかし釣りブームで全国に広がってしまいました。

複数のオスが隣接して産卵床を構える繁殖コロニーを作り

ます。メスはバスよりも多くの卵を産みます。井の頭池では5月中旬から産卵が始まり6月の初めごろがピークですが、9月ごろまで続きます。主に砂礫底に産卵床を掘りますが、バスより場所の好みは緩く、コロニーを破壊しても別の場所を作るし、産卵期が長いので、繁殖を阻止するのは困難です。食性が広く、植物も小動物も食べます。とくに魚の卵を好むので、在来魚が増えられなくなります。井の頭池では全長23.5cmぐらいになり、大きな個体は在来種の稚魚やエビも捕食します。

原産地でオオクチバスと共存してきた魚なので、バスに全滅させられない特性を進化させています。上記に加えて、速い逃げ足、呑み込まれにくい高い体高と背びれの鋭いトゲなどです。そのため、バスと一緒に放流することがバス釣り業界で推奨されたことがあります。在来種を食べつくすとバスは減ってしましますが、何でも食べるブルーギルがいればバスは生存でき、いつまでもバス釣りができるからです。バスは捕食しやすい在来生物を先に食べるので、残るのはこの両種と、バスの口に入らない大きな魚だけです。

こんな結果になり、生物学者でもある陛下の心痛はいかばかりかと想像します。早急に解決すべき問題ですが、ブルーギルが特定外来生物に指定されてから7年以上経つのに、いまだにそのことを知らない人が少なくないのが残念です。



産卵床のブルーギル

11

「楽園はよみがえるか」



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカッパで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

伝説の「宇賀神像」が、弁天堂脇に引越してきた！

四月の例大祭に先駆けて「宇賀神像」が弁天堂の左脇に移設されました。顔は人で、胴体はとぐろを巻いた蛇といふこの石像は、長年、御堂正面の丘の階段上に鎮座していましたが、「見に来る人が多いのに、場所が分りづらい」ということで下に降ろされてきたのです。さて、この像の由来はいかに？



平成 25 年 4 月に弁天堂の脇に移設された「宇賀神像」。

十方庵敬順『遊歴雜記』の一部

写真提供：国立公文書館



上の写真は、『遊歴雜記』の五十四章「吉祥寺村猪のかしら弁財天」の頁。「宇賀神像」が、素朴でユーモラスなタッチで描かれています。

『遊歴雜記』は、まえがきに「文化十一年秋八月」と記された江戸時代の書物です。著者の十方庵敬順（じっぽうあんけいじゅん）は、小日向（現・文京区）の廓然寺（かくねんじ）の住職で、職を退いてからは、携帯型の「帖煙炉（たてみこんろ）」と煎茶道具を持ち歩き、あちろちろで茶を飲み句を詠み、名所散策を風流に楽しんだ人でした。

「坂の下り口に、見上るべき四方面の碑あり、碑の頭に弁財天にや、頭は老翁に、体は蛇形にてとぐる巻で蟠（わだかまり）たる全形を刻す、左の如し」という記述をみるに、敬順はこの像を弁財天と解したようです。石像には寄贈者も寄贈年も刻まれていないので来歴を知ることができませんが、敬順の素描が実物と似ているので、文化十一年（1814年）頃には弁天堂正面の丘の上に据えられていたことは確かと言えそうです。

三鷹市教育委員会発行の『てくてく・みたか』には、こんな伝説が紹介されています。

昔、松原（現・世田谷区）の長者夫婦が井の頭弁財天に願をかけて娘を授かった。首すじに三枚のウロコのある娘は、弁天様のようだと言判になるほど美しく成長したのだが、16歳の春、自分は池の主の化身だと告げて池に身を投げ、みるみる白蛇に変わってしまった。せめてもの供養にと、長者夫婦は宇賀神像を作った。

……真偽はともかく、伝説をひもとくながら遺跡を訪ね歩きたくなるのが人の性（さが）。それを察し、宇賀神様が今回の引越しをはた迷惑に思わずにいてくれたらよいのですが。

安田知代

私と井の頭公園その11

湧水の復活こそ根本的改善

杉田 昇（武蔵野市在住）

2004年に設立された東京吉祥寺ライオンズクラブは、設立記念事業として井の頭池の水質浄化運動を始めた。その事業を提案したのが、吉祥寺で生まれ育った杉田昇さん。

記念事業案は誰も反対しませんでしたよ。井の頭池がよみがえることは、皆が願っていることです。ただこの事業は、ライオンズクラブが池の浄化をするのではなく、私達が行政に働きかけて、行政が本気になって浄化をすることを促す運動なんです。そんなことで、最初に行ったのが、「井の頭恩賜公園と七井池の水質浄化と在来魚種の復活に関する請願」を武蔵野市議会に出したことです。特に東京都に対し、「池の底が見えるまで池水を澄ませる事業」に取り組むよう意見書を提出して欲しいと書いたんです。

そんな動きを知ったのか、『井の頭かんさつ会』や『神田川ネットワーク』という市民グループとの交流も始まったのです。彼らも餌をやらぬ運動や外来魚駆除などの必要性を訴えていて、私たちが行政とのパイプ役になり、あの『エサやり自粛キャンペーン』が誕生したんですよ。

今まで、炭素繊維人工藻場（注1）を浮かべたり様々なことを行ってきて、それはそれで意義はあったんですが、残念ながら井の頭池の根本的な改善にはならないのです。私は湧水の復活こそが井の頭池の根本的な再生と考えています。

とても大きな課題ですが、やっていきたいですね。小さい時、井の頭池から流れ出た清流に腰までつかり、ハヤやウグイを捕った頃の感動を次の世代に残したいですから。

（東京吉祥寺ライオンズクラブ元会長）

（聞き手・写真 川井信良）



（注1）群馬高専の小島教授の指導による人工藻場。炭素繊維が水質浄化作用と在来魚の産卵を促す効果があると言われている。



2013年5月1日 深夜 稲荷神社全焼

写真 古賀 親宗（こが もとりの）
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。（奇数月1日の隔月発行です）

「いのきちさん」のホームページができました！更新中！
<http://www.inokichisan.com/>

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
✉ inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。



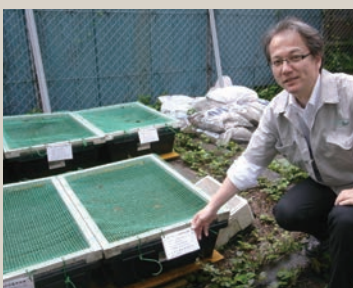
スマートフォン対応



広い視野での検討・準備が着々と進んでいます

「よみがえれ！井の頭池！」の活動は、『井の頭恩賜公園100年実行委員会』の「水と緑部会」が中心となって進めています。メンバーは地域の団体や関係市などの方々。事務局を務める西部公園緑地事務所の工事課では、4月に担当5人中4人が異動となり、目下、新任の職員の方々が「かいばり」に関する勉強に力を入れつつ、市民の方々と協働手法の検討や、関係機関とのさまざまな調整を進めているそうです。

平成25年度の冬場に予定されている「かいばり」で現在特に重要課題となっているのは、水を抜いたときのリスクです。自然文化園の浮き桟橋、弁天堂、石積等への影響が大きいと予測されるため、第一回の今回は弁天池だけは水を抜かずにおく可能性が高いようです。また、神田川の下流の生物への影響も考慮し、期間中の水の流し方についても検討が進められています。



▲新しく工事課長に就任した大道和彦さん。3～5年かかるといわれる発芽を期待しつつ、水草の「埋土種子」への水やりも事務所の裏でしています。

よみがえれ！井の頭池 11

『いのけん』（井の頭公園検定）講座

第2回 井の頭公園検定（いのけん）が2013年12月15日（日）に決定！！（同封申込書をご参照）

- 問題1 井の頭自然文化園に飼育されているアヒルの品種コールダック（Call Duck）の名前の由来は何でしょうか。
- 1）大きな声を出すから
 - 2）めったに声を出さないから
 - 3）呼ぶと集まってくるから
 - 4）仲間と一斉に声を出すから
- 問題2 江戸時代の村尾嘉陵が休日に近郊を散策して書いたのが『嘉陵紀行』。その中の『井の頭紀行』によると、日本橋の浜町から井の頭の往復に何時間かかったと書かれていますか。
- 1）9時間
 - 2）12時間
 - 3）15時間
 - 4）18時間

答えは裏の面にあります。